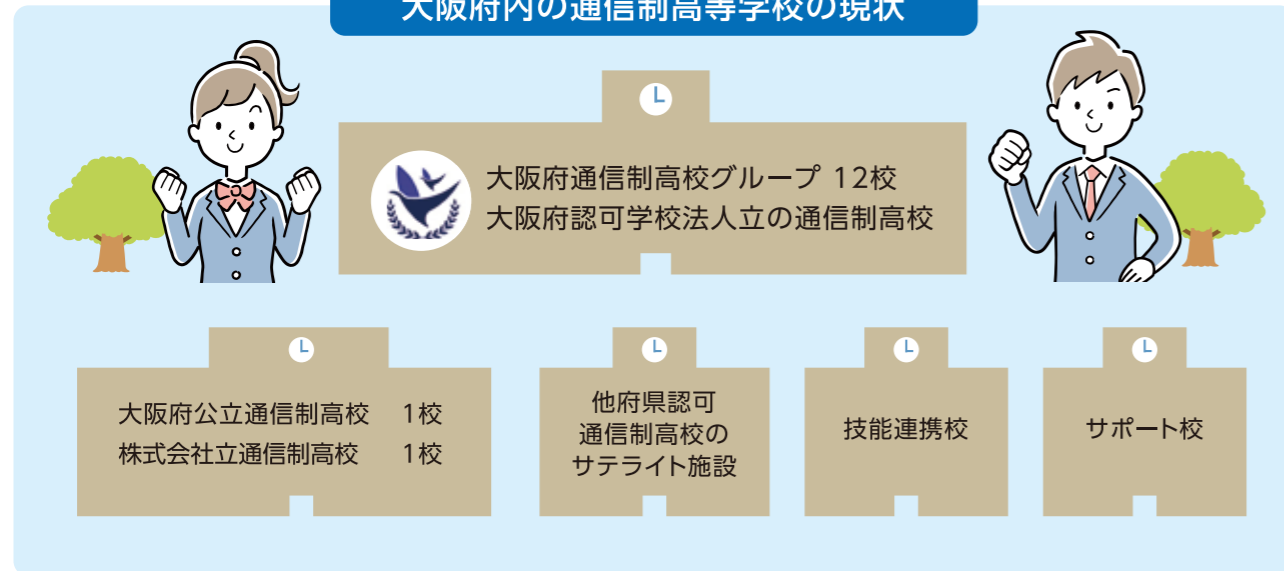


12 大阪通信制高校グループの目指す教育

大阪府下における通信制高等学校の動向は目まぐるしく変化しています。

先述のとおり、大阪通信制高校グループ12校を含む、府下の通信制高校学校関連の教育施設は、約180にも上ります。街中を見渡せば、至るところに、「通信制高校」と名のつく看板を見かけることがあるかと思いますが、それぞれの学校が、どのような仕組みの学校であるかを、深く理解することが困難になっているのが現状です。入学を検討する生徒・保護者、進路指導を担当する教職員の皆様に今一度通信制高校教育のシステムや、現状をしっかりと認識していただくために、当グループは研修機会を多く設け、活動を行っております。

大阪府内の通信制高等学校の現状

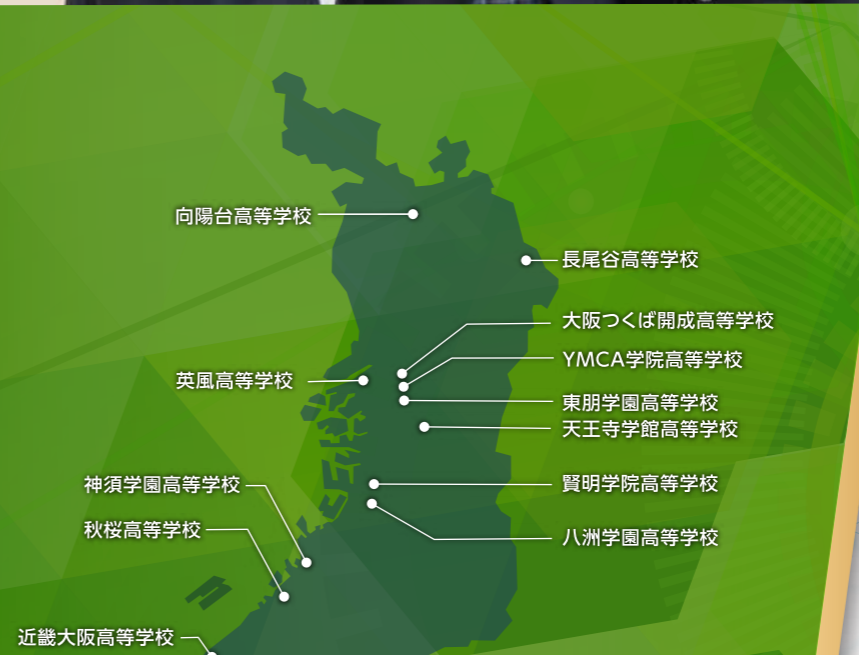


前章の「令和の高等学校教育」で示されているとおり、高等学校教育の在り方は今後大きく変化していきませんが、通信制高校自体も、その教育内容を大きく見直ししていく必要がある時期に差し掛かっています。大阪通信制高校グループとしては、右記の点を重要視しながら教育内容の充実を目指していきます。

- 高校教育の目的は「卒業」だけではない
- 学校へ登校することの重要性
- 他人と接する機会の構築
- 学ぶ方法の多様化+α(アルファ)を重要視
- 自校の教育内容の追求

高校教育の目的は「高校卒業」の資格取得のみではありません。教育内容の「効率化」に偏らず、学校へ登校できる機会の増加を大切にします。インターネットや情報機器の活用は、教育学習ツールとして有効に使用しますが、あくまでも対面授業の重要性にこだわり、カリキュラムを構築します。

また、高校は勉強だけではなく、他人と直接触れ合う機会でもあります。友人や先生との関わりの中で発生する気づきを子供たちに与えたいと考えています。学ぶ方法の多様化を考えるのは当たり前の時代になっていますが、そこにプラスアルファでどのような教育を行えるかが重要であるため、通信制高校の教育システムの中でできることを誠実に考えていきます。当グループ12校は、それぞれ切磋琢磨しながら、自校の教育内容を追及してまいります。



INDEX

1 現在の通信制高等学校に求められているものとは	01
2 通信制高校の仕組み	03
3 通信制高校のスクーリングと通学	05
4 変化する通信制高校の学びの形	07
5 通信制高校と提携する教育施設	09
6 通信制高校の進路指導	10
7 大阪府の通信制高校教育の現状	11
8 今後の高等学校教育の動向	13
9 通信制高校の授業料と学費補助制度	14
10 通信制高校に通う生徒の様子	15
11 大阪通信制高校グループ紹介	17
12 大阪通信制高校グループの目指す教育	19

2023年度版

大阪通信制 高校ガイド

大阪通信制高校グループ監修

大阪府認可私立通信制高等学校

大阪通信制高校グループの取り組み

大阪通信制高校グループとは、大阪府より認可を受ける学校法人立の通信制高校12校で形成されているグループで、設立よりまもなく10年を迎えます。グループ設立趣旨は、過去と大きく形を変え、多様化していく通信制高校教育の内容や現状を教育関係者の皆様に正しく理解していただくために、最新の通信制高校教育の動向をお伝えする定期的な教育研修会の開催や、各校の教育実践報告会などを実施しています。

また、生徒・保護者を対象とした「合同入学相談会」も開催しています。目まぐるしく変化する通信制高校教育の状況に適切に対応し、進学を希望する生徒に対し、魅力的な教育内容を検討・提案していくグループです。



近年、通信制高校への求められるニーズが大きく変化してきています。また、それは変化とともに多岐に渡ることも特徴としてあげられます。

今までは、「学業と仕事の両立」を希望する方、高校を中途退学・留年した生徒の転編入学の希望先というのが通信制高校への大きなニーズでしたが、現在は、転編入学生に加えて、中学校を卒業してすぐに通信制高校へ入学する新卒生の割合が増加しています。新卒生の中には、小・中学校時代に不登校を経験している生徒も多く存在します。また、学力不安や発達課題を抱えているケース、起立性調節障害などを理由に、朝からの登校が困難なケース、さらに集団行動に苦手意識があり全日制高校に通えないなど、様々な生徒が在籍しています。

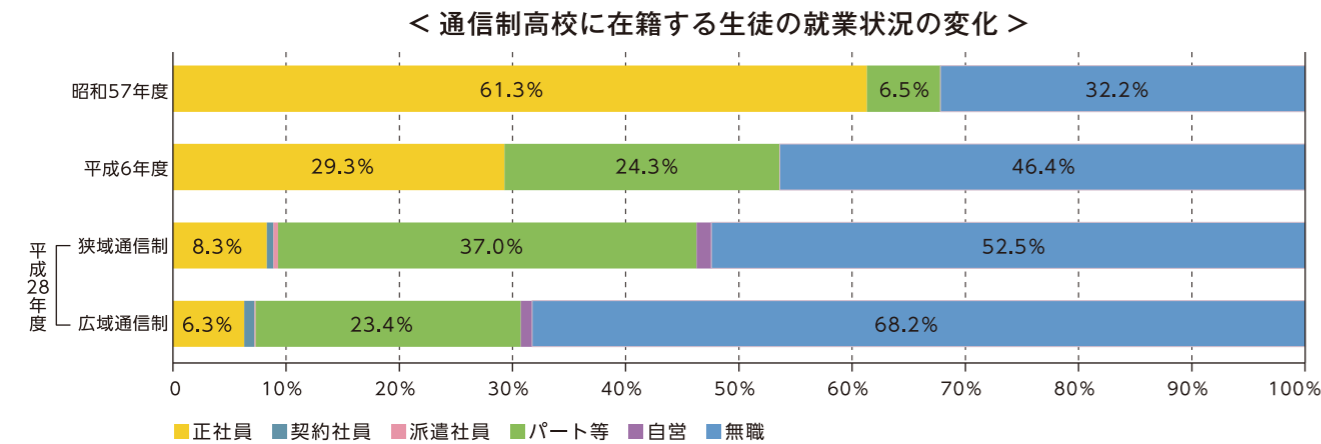
比較的柔軟に学習計画を立てることができる通信制高校の特色を活かして、資格取得勉強やスポーツ活動・文化活動・芸能活動と並行して学んでいる生徒もいます。20年以上前のニーズである「学業と仕事の両立」や「登校日数を極力減らしたい」から、高校卒業資格を得るために「自分のペースで沢山学びたい」というニーズの変化を教育現場として強く感じているところです。

また、通信制高校と言えば「自学自習」のイメージが強くありましたが、上記のニーズの変化と合わせて「勉強や進路を手厚くサポートしてほしい」、「生活習慣の改善に力を入れたい」などの保護者からの要望も増加しているのが現状です。

このように変化し多様化するニーズに合わせて、現在の通信制高校は様々な教育システムや生徒指導・生活指導・進路指導を含む、特色のある学びを目指した学校運営を行っています。

通信制高校に在籍する生徒の就業状況及び実態等

○通信制高校の在籍生徒に占める就業者の割合が減少する一方で、小・中学校及び前籍校において不登校経験を有する生徒の割合が最も多く、生徒の実態が変容している状況にある。



通信制高校に在籍する生徒の実態等

	狭域通信制	広域通信制
小・中学校及び前籍校における不登校経験がある生徒	48.9%	66.7%
外国とつながりがある(外国籍・日本語を母語としない)生徒	2.8%	2.4%
ひとり親家庭の生徒	26.9%	18.7%
非行経験(刑法犯罪等)を有する生徒	2.1%	4.1%
特別な支援を必要とする生徒	11.8%	3.0%
心療内科等に通院歴のある生徒	11.0%	4.8%

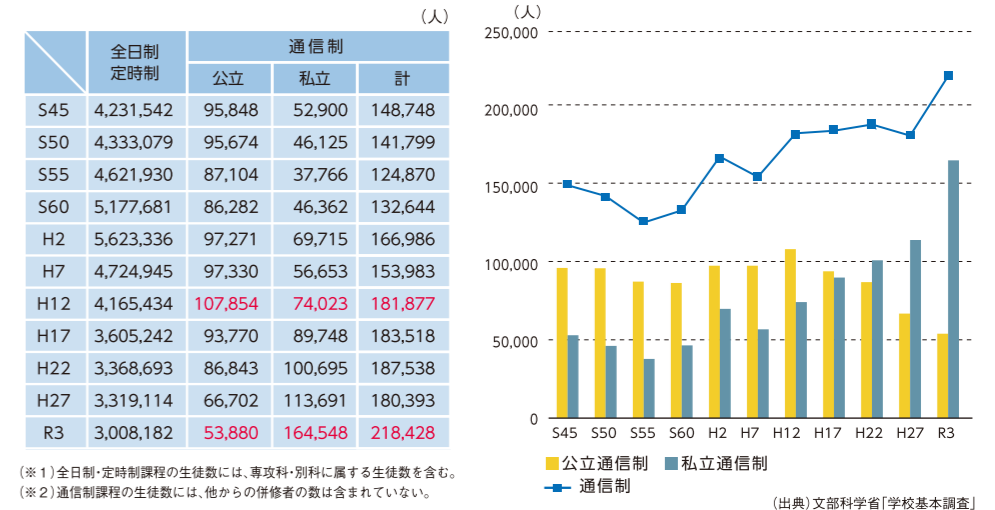
(出典)「定時制・通信制高等学校における教育の質の確保のための調査研究」報告書(平成29年度文部科学省委託事業)

大阪通信制高校グループ12校は、近年のニーズにいち早く対応すべく、各校特色のあるクラス設定、授業設定をおこなっています。

通信制高校に在籍する生徒数、通信制高校の設置校数・単位修得率の推移(公私別)

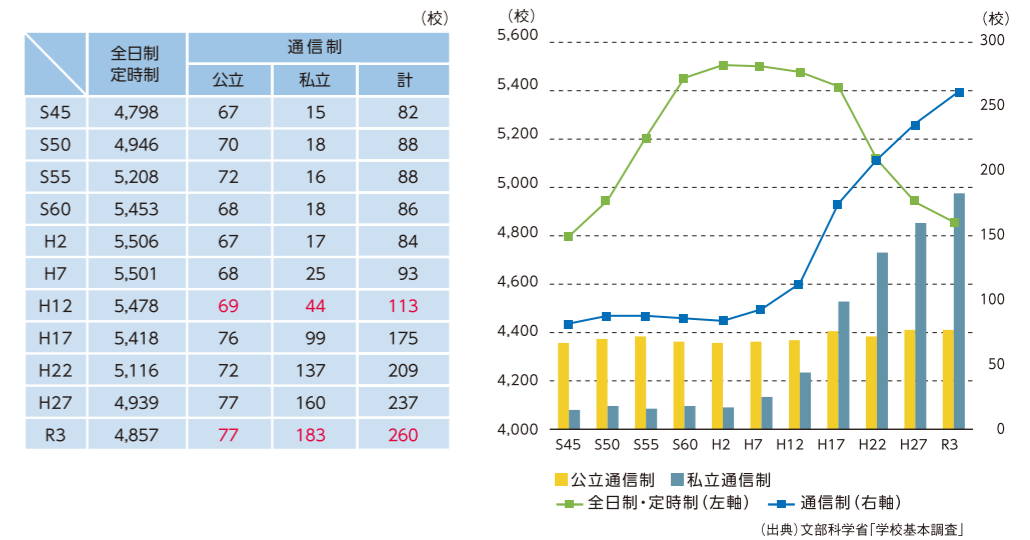
高等学校の生徒数(公私別推移)

- 高等学校の生徒数の推移について、近年、全日制・定時制課程の生徒数は全体として減少傾向にあるが、**通信制課程の生徒数は全体として増加傾向**にある。
- 公私別で見れば、**私立通信制の生徒数が大きく増加している一方で、公立通信制の生徒数は徐々に減少**している。(平成12年から20年間で、**私立の生徒数は2倍以上に増加する一方で、公立の生徒は半減**)



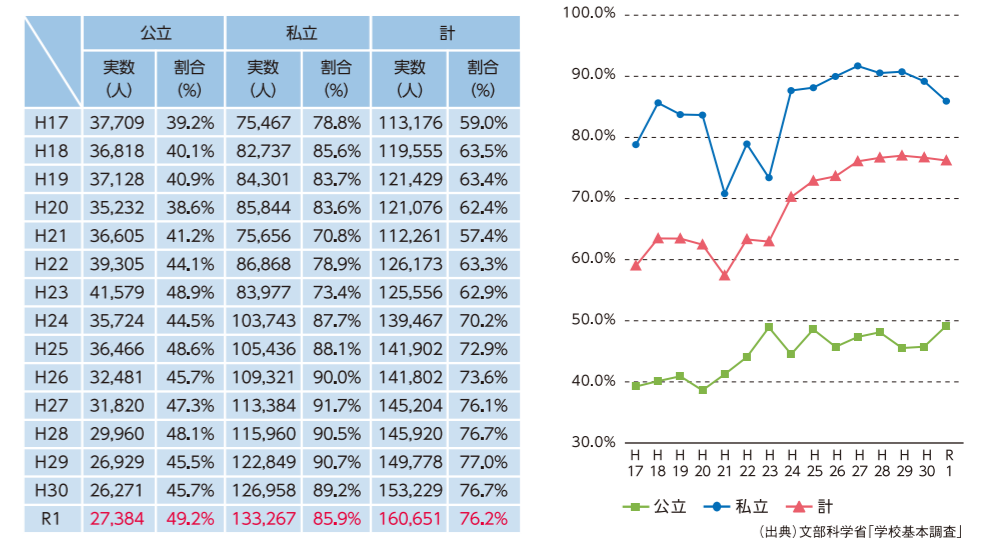
高等学校の学校数(公私別推移)

- 高等学校の学校数の推移について、近年、全日制・定時制課程を置く高等学校の校数は全体として減少傾向にあるが、**通信制課程を置く高等学校の校数は全体として増加傾向**にある。
- 公私別で見れば、公立通信制の校数はわずかに増加している一方で、**私立通信制の校数は大きく増加**している。



通信制課程の単位修得者数(公私別推移)

- 通信制課程の単位修得者数は、全体として増加傾向にある。
- 公私別で見れば、**全体の生徒のうち単位修得者が占める割合は、私立通信制の方が公立通信制よりも高い状況が続いており、令和元年度では、公立通信制が49.2%、私立通信制が85.9%となっている。**



通信制とは

日本の高等学校には「全日制」「定時制」「通信制」と課程が3つあり、通信制はそのうちの1つです。

主な特徴として、高校在学中に行う勉強の学習量の基準の考え方が異なります。学習指導要領においては、通信制高校の学習量の基準として、各教科・科目ごとにスクーリング(登校による面接指導)とレポート(添削指導)の回数が1単位ごとに決められています。

全日制と比較すると比較的緩やかな学習量が下限の基準ですが、学校によっては、週に1日登校や、2日・3日登校、毎日登校など、多様な形態でコース設定を行っており、下限の学習基準を満たすだけではない学習形態となっています。

< 学習指導要領で定める学習量の基準 >

各教科・科目	面接指導 (単位時間)	添削指導 (回数・通数)
国語・地理歴史・公民・数学	1	3
保健体育(体育)	5	1
保健体育(保健)	1	3
芸術・外国語・理科	4	3
家庭・情報・専門教科科目	2~8	2~3

単位制とは

学年ではなく、単位を基準として学習量が決定される仕組みです。

通信制高校の大半がこの単位制を採用しています。各生徒のニーズに合わせた学習計画を立てることが可能な仕組みです。

1年間に履修できる単位数は、各校により定められています。また、高校卒業に必要な最低単位数74単位修得までの計画は、各個人によって異なります。単位を基準に考える制度のため、年度内に単位修得できない科目については、次年度に再履修し修得を目指すことが可能です。学年が存在しないため「原級留置」が無いことも大きな特徴の1つです。

単位修得の仕組み・方法

通信制高校では、スクーリング・レポート・単位認定試験の3つを中心に学習を進め、科目ごとに単位修得を目指します。高校卒業に必要な修得単位数は74単位以上です。また、74単位の修得単位の中には、高校の必修科目の履修・修得が必要となります。

通信制高校には、他校からの転入学や編入学で在籍している生徒も多くいますが、他校での在籍経験があった場合、その在籍期間や修得単位は通算在籍期間や通算修得単位として認定されるケースが大半です。

また、3年間の高校生活の中で、学習ペースを調整することも可能です。また、事情があって進級できず、転校する場合でも、単位を平均より多く修得することを目指して頑張れば、同級生と同じ時期に卒業を迎えることも可能です。

★例えば「国語総合4単位：R12枚、S4時間」を修得する場合

◎期日までにレポート12枚提出して合格

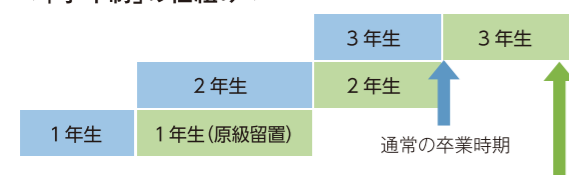
◎期日までにスクーリング4時間分の出席(一部、NHK高校講座やメディア視聴教材で時間数減免が可能)

◎レポート、スクーリングを終えると単位認定試験を受験可能(受験して合格→単位修得)



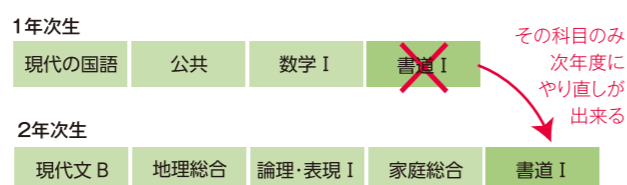
「学年制」と「単位制」の違い

< 「学年制」の仕組み >



学年制の学校は学年ごとの学習量が単位数によって固定されています。同じクラスの生徒は同じ学習量となります。よって、規定の学習量の単位修得ができない場合は、進級できず留年(原級留置)という考え方になります。

< 「単位制」の仕組み >



単位制は、個人別に学習単位(履修単位)を決定するため、同じクラスであっても学習量が異なるケースもあり、仮に単位修得できないケースであっても、次年度に再履修することができます。

通信制高校での学び方

① 多様なコース・クラス設定

- ◎週1日~毎日登校、短期集中型・少人数・個別設定
- ◎進学サポート充実・基礎学力定着・家庭学習中心

② 登校日数軽減のために

- ◎インターネットを活用した授業(eラーニング)
- ◎NHK高校講座などのメディア教材の継続学習によって、報告書を提出し、スクーリングの出席時間数免除

③ 学校と保護者の連絡体制強化

- ◎担任と保護者の連絡体制に様々な工夫をしています(電話・メール・通信物での連絡など)。
- ◎低年齢化する通信制高校生徒の指導において保護者との連携は欠かせません。



卒業要件

単位修得の仕組み

スクーリング
(登校による面接指導)

1年間(25単位履修した場合)で20日間程度が基準。

実施場所は本校・分校になります。

レポート
(添削指導)

課題を期日までに提出し、指導を受ける。

メディア学習

視聴覚教材を使用し、報告書を提出。

登校日数が最大6/10まで減免されます。

単位認定試験

各期に行われる試験を受験。

実施場所は本校・分校になります。

教科・科目の単位修得

卒業の条件

74単位以上の修得

通算3年間以上の修学

特別活動への30単位時間以上の参加

高校卒業資格

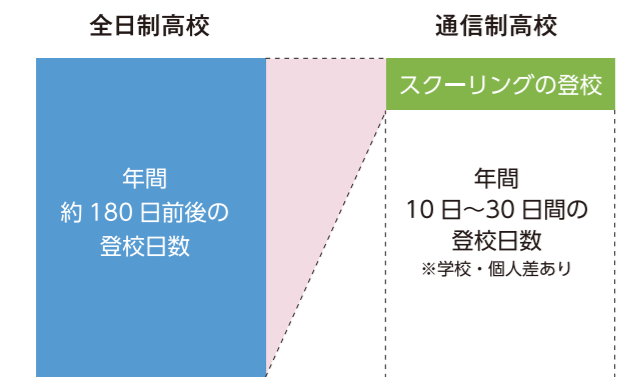
通信制高校の登校日数の考え方 全日制高校との比較

年間の登校日数が約180日となる全日制高校と比較して、通信制高校の登校日数は少ないと考えるのが基本です。通信制高校は、そもそも単位制の通信教育の制度を前提としているため、進級・卒業条件に登校日数を設定しているケースが少ないです。

学校への登校の考え方は前述のとおり、履修科目ごとに設定されている、スクーリング(面接指導)の規定時間数の出席時間数を主に考えられており、「登校すべき日数」ではなく、「出席すべき時間数」で学習計画が考えられます。

生徒は個々で履修している単位数が異なるため、その時間数は個々によって異なります。これを登校日数で考えるとスクーリングや特別活動、試験などを含めて年間10日間～30日間ほどの登校日数となります。

<全日制高校と通信制高校の登校日数の比較>



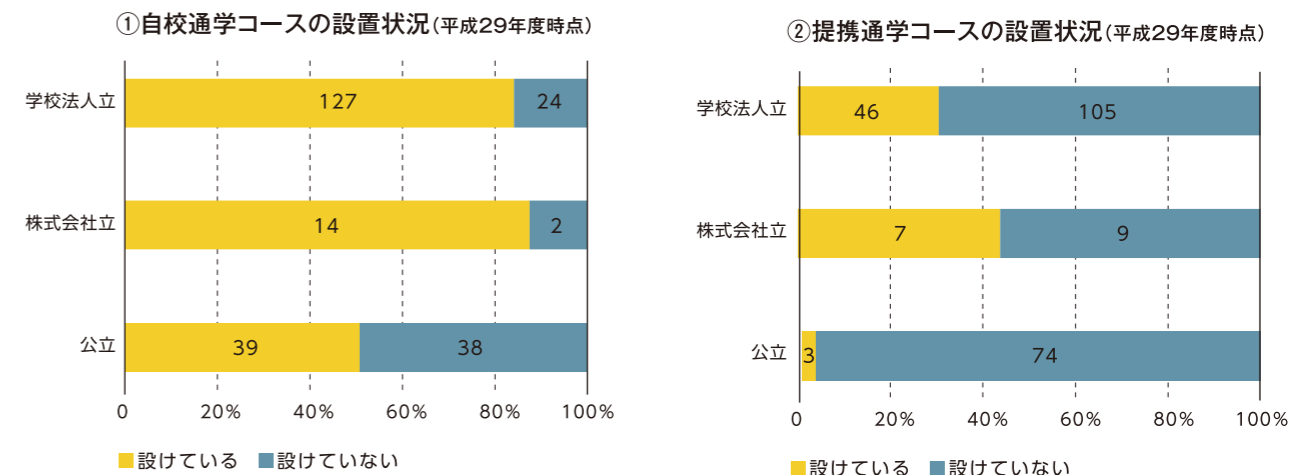
通学型の通信制高校とは？

通信制高校における教育課程は、①スクーリング(面接指導)、②レポート(添削指導)、③試験で構成されており、この他に④多様なメディアを利用した指導を実施した場合は、面接指導の一部免除が認められています。昨今では、この教育課程の学習に加えて、学校に通学して学ぶ生徒が増加しており、「通学型」のコースを設置している通信制高校も多く存在します。生徒は日常的に学校に通学し、学習活動の支援や生活、進路指導面での支援を受けています。

通信制高校の「通学型」コースは、週1日以上通学して学習するコースのことを指し、大きく①本校施設に通学するコースと、②提携施設に通学するコース(いわゆるサポート校)に分類されます。



<通学コースの設置状況>



(出典) 高等学校通信教育に関する調査結果(平成29年7月 文部科学省初等中等教育局)

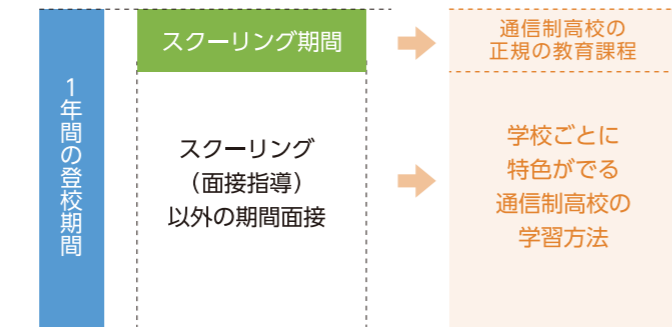
<「通学型」コースに通う生徒の実態>

	利用生徒総数	校数	週1日のコース	校数	週2日～4日のコース	校数	週5日のコース
公立	15,233	37	12,926	10	1,140	1	370
学校法人立	42,304	71	7,435	70	13,672	60	17,361
うち狭域	10,121	27	1,556	20	3,992	20	3,456
うち広域	32,183	44	5,879	50	9,680	40	13,905
株式会社立	5,081	8	707	12	1,233	9	3,141
合計	62,618	116	21,068	92	16,045	70	20,872

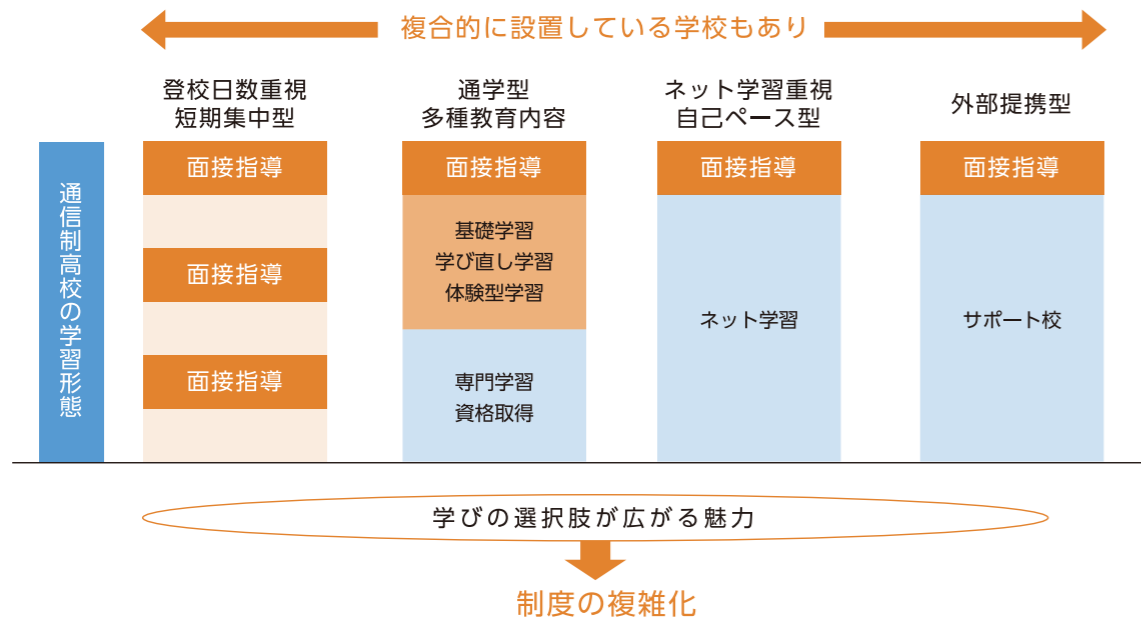
(出典) 高等学校通信教育に関する調査結果(平成29年7月 文部科学省初等中等教育局)

上記図の通り、公立通信制高校より、学校法人立、株式会社立の通信制高校の方が、この「通学型」のコースを設置している割合が高く、通信制高校全体で見た場合、約5割の生徒が、「通学型」のコースで学習をしていることが分かります。

通信制高校に求められるニーズが大きく変化してきたことにより、通信制高校の学びの形も大きく変化してきました。正規の教育課程のみの学習量より、さらに多くの学習ができる形態の学校が増加したことにより、学校による特色が色濃く出てくるようになりました。

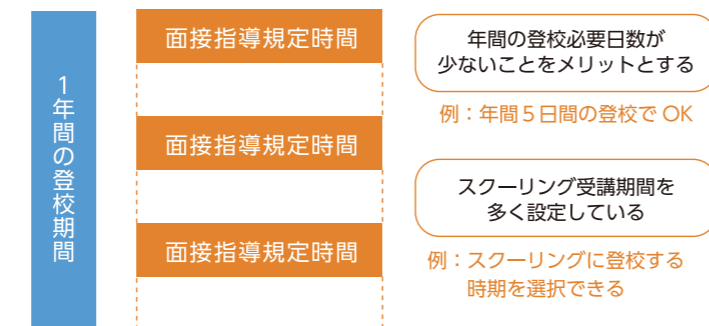


従来は、1年間の登校期間のうち、スクーリング期間のみ登校する学習スタイルが通信制高校の特色でしたが、「自分のペースでより多く登校したい」というニーズに合わせて、スクーリングに加えた登校機会を多く設け、特色のある教育内容を設定する学校が増加してきました。それにより、生徒にとって学びの選択肢が広がる魅力も高まっていることが大きな特徴として挙げられますが、その反面、通信制高校の学習制度が「複雑化」している側面も考えられます。学習形態の特徴として以下のような例が挙げられます。



(1) スクーリング(面接指導)の開講時間数

スクーリング(面接指導)の開講時期や時間数で学習方法の特色を出すケースです。従来の通信制高校のイメージにそった、「年間登校日数の少なさ」を特徴としてあげるケースや、スクーリングの開講時間数を多く設定することによる、「登校時期を選択できる」ことに特色を出す学校もあります。



(2) 通学型コース

週に1日以上登校機会を設け正規の教育課程に加え多様な学習を設定するケースです。

「通学型」のコースのカリキュラムの特徴としては下記の内容が挙げられます。

- ① 習熟度別指導を積極的に取り入れている
- ② 義務教育段階の学び直しに力を入れている
- ③ 大学入試対策に重点化している
- ④ 職業教育に力を入れている
- ⑤ 横断的・総合的な学習や探究的な学習の機会を積極的に設けている
- ⑥ 集団活動や人間関係づくり、コミュニケーションスキル育成等の機会を積極的に設けている
- ⑦ 生徒指導や教育相談に力を入れている
- ⑧ 進路指導、キャリア教育に力を入れている
- ⑨ 個別指導・少人数教育に力を入れている
- ⑩ 学習ペースをゆるやかに設定することに力を入れている

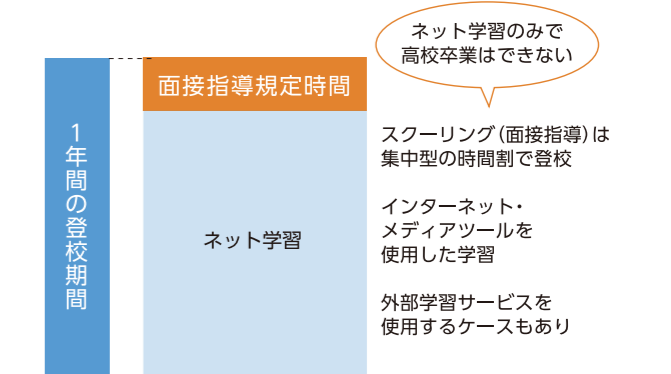


(3) ネット学習型のコース

インターネットを使用した学習形態を学習方法の特色として設定する学校も出てきています。

学校独自の学習ツールに加えて、外部の学習ツールなどと連携しているケースもあります。

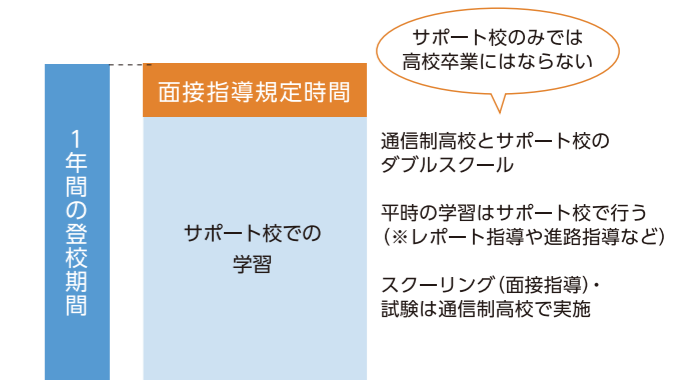
注意点としては、インターネットの学習のみで、通信制高校の正規の教育課程を終了することはできず、必ず学校への登校とスクーリングの出席が必要になるという点です。



(4) 外部教育機関(サポート校など)と提携する学校

自校の教育施設だけでなく、外部の教育機関と提携しているケースです。この形態が昨今の通信制高校の学習形態で一番複雑な形となっています。この形態は、通信制高校と同時に他のサポート校に入学しているケースも多く、ダブルスクールとなっていることが特徴です。

サポート校での学習のみでは、高等学校の単位修得はできませんので、自身が学ぶ教育施設がどのような形態かをしっかり理解して選択することが重要です。サポート校の仕組みは、次のページでも改めて説明します。



技能連携校

都道府県教育委員会の指定を受け、その実施する技能教育の学修成果を連携する高校の一部の教科の履修とみなす教育施設で、主に専門学校(高等課程)や高等専修学校と連携している場合が多いです。技能教育にはその技能教育施設の指導者が技能教育を実施し、その施設の一部を使用して、通信制高校の教員がスクーリング等を行うことで高校卒業資格と技能教育施設の修了・卒業資格を同時に得ることができます。

技能教育施設で学ぶことができる技能は、情報処理、商業実務、服飾・家政、美容、動物、文化・教養などがあり、全国に約280校あります。

サポート校

サポート校とは、通信制高校の生徒が高校を卒業するためのサポートを行うスクールで、高等学校ではなく民間の教育機関です。主に学習面と生活面のサポートを行い、学習面では通信制高校のレポート作成について自分一人では進めにくい場合や理解が深まらない場合にサポートを受けることができます。

また、人間関係などの構築のために週3日通学コースなど通学する日数を増やしたり、大学進学対策などをおこなったりもしています。ただし、サポート校は国に認可された学校ではないため、学校教育法のもと、学校側の人員や設備等に決まりが定められている正規の学校と違い、サポート校はこの法律に影響されません。

そのため、教員免許を持たない人が指導にあたることや、経営が立ち行かず潰れてしまったとしても何の保障も無いという危険性があります。また、スクーリングは通信制高校やその高校が指定する施設(大学や専門学校など)で出席する必要があります。

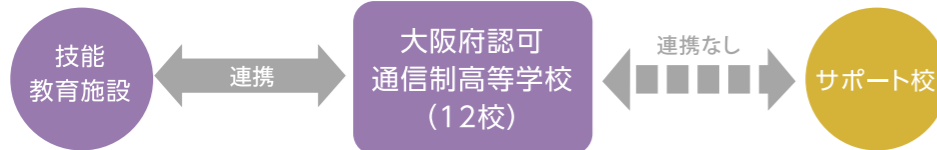
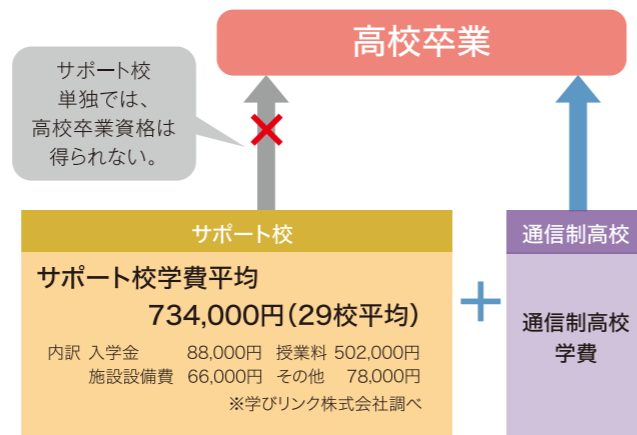
学費面では、高校とサポート校の両方に入学が必要となるため、入学金やその他の費用が2校分かかります。

■サポート校のしくみと学費について

サポート校とは、通信制高校とは別組織として運営されている民間施設のことです。サポート校自体には高校を卒業させる資格が無く、あくまでも在籍している通信制高校の学習を支援することを目的としています。

一般的にサポート校は、〇〇高等学院や〇〇高等部、〇〇スクールなどの名称で設置されていることが多いです。サポート校は通信制高等学校のサポートという位置付けで、高等学校のカリキュラムと混同するような内容を実施しているケースがありますが、実際は通信制高等学校としての学習活動としては認められていません。

サポート校にかかる学費は様々ですが、平均としては右表の通りです。これとは別に通信制高等学校への学費も必要となりますので、通信制高校単独で在籍するよりも学費が多くかかることが一般的です。



大阪通信制高校グループの大阪府認可通信制高校は、原則サポート校との連携は行っていません。技能教育施設と連携している学校は、その連携先の学校の教育特色と自校の教育内容を並列で分かりやすく入学検討者に理解してもらえよう努めています。



■一般的な通信制高校の進路指導のイメージ

通信制高校から
進学や就職ができるのか

進学や就職の受験の際に
不利になるのではないのか

通信制高校は
そもそも進路指導をしてくれるのか

進学や就職はもちろん可能。通信制高校の卒業資格だからと、受験の際に不利になることはありません。

一昔前までの通信制高校は「高校の卒業資格を得る」ことを第一目標とする方の割合が多く、進路指導に着目される機会が少ないのが現状でした。しかし近年では、「高校卒業」だけではなく、その先の進路指導の重要性が高まっており、困難な課題を抱えながらも各校対策に努めています。

■通信制高校の進路指導の現状

通信制高校には多様な生徒が在籍しています。また、それだけに進路への希望も多岐にわたっています。何よりも大切にしているのは「一人ひとりの状況に合った、生徒に寄り添った進路サポート・アドバイス」を心掛けていることです。進学校のような進路目標を設定しているわけではないので、より生徒一人ひとりを尊重した進路指導、多様な進路実現が可能になっています。従来の進学・就職だけでなく、職業訓練校や就労支援に進む生徒もおり、そのサポートも行っています。

そのような形で進路指導をしてきたので、昨今増加している総合型選抜入試への対応もスムーズにできており、志望理由書や面接などの対策も行っています。こうしたサポートやアドバイスを通して、生徒が自己理解をし、自己実現につながるようにと心がけています。

■進路の取り組みや行事の一例と今後の充実に向けて

通信制高校でも進路指導関連の取り組みの一例として、進学・就職ガイダンス、志望理由書・面接・小論文指導、大学進学対象コース・講座、職場体験、学び直し学習、資格・検定講座などを実施しています。

これらの行事に主体的・積極的に参加できる生徒がいる一方、最初は受け身の生徒、将来の進路について考えるところからアドバイスが必要な生徒もたくさんいます。各校では、生徒に自分の進路を考えさせる機会を作るために、生徒や保護者との連携を密に取り、繰り返しコミュニケーションをとることを大切にしています。

こうしたコミュニケーションの結果、体調不良が原因で全日制での在籍を続けることができなかつたが、自分のペースで学習していくうちに進学や就職を目指せるようになった生徒、配慮が必要だが学校のサポートを受けて就職先を探すことができるようになった生徒も多くいます。

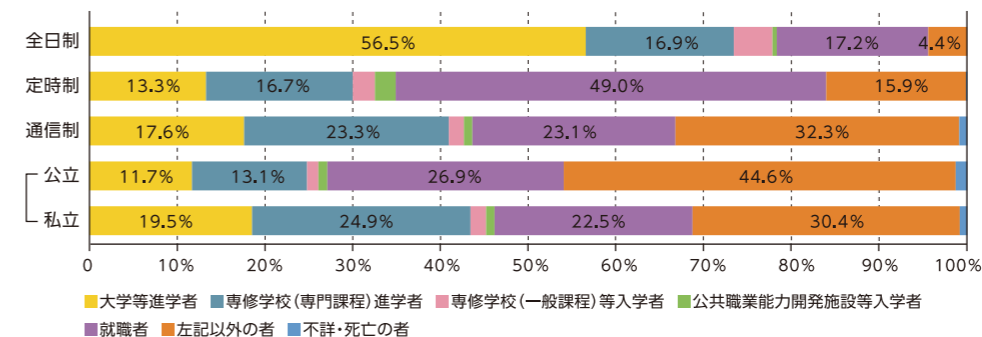
できるだけ一人ひとりがよりよい進路を実現できることを目指して、「多様化する進路に向けて少しでも早く考え出すためのサポート、学力差に応じた進路指導、進学後や就職後を見据えた生活リズムの定着、配慮を要する生徒の就職指導等、奨学金情報の提供やアドバイス」などを今後も充実させるよう取り組んでいます。

こうした課題は、各学校だけでなく大阪通信制高校グループ12校でできるだけ共有し、意見交換をおこなっています。

また、年に1~2回、通信制高校に理解のある学校や企業が集う、合同進学相談会も12校で実施しています。

< 通信制課程の卒業後の状況(令和元年度間) >

○通信制課程の卒業後の状況について、令和2年5月1日現在、令和元年度間に卒業した者のうち、大学等進学者が17.6%、専修学校(専門課程)進学者が23.3%、就職者が23.1%。

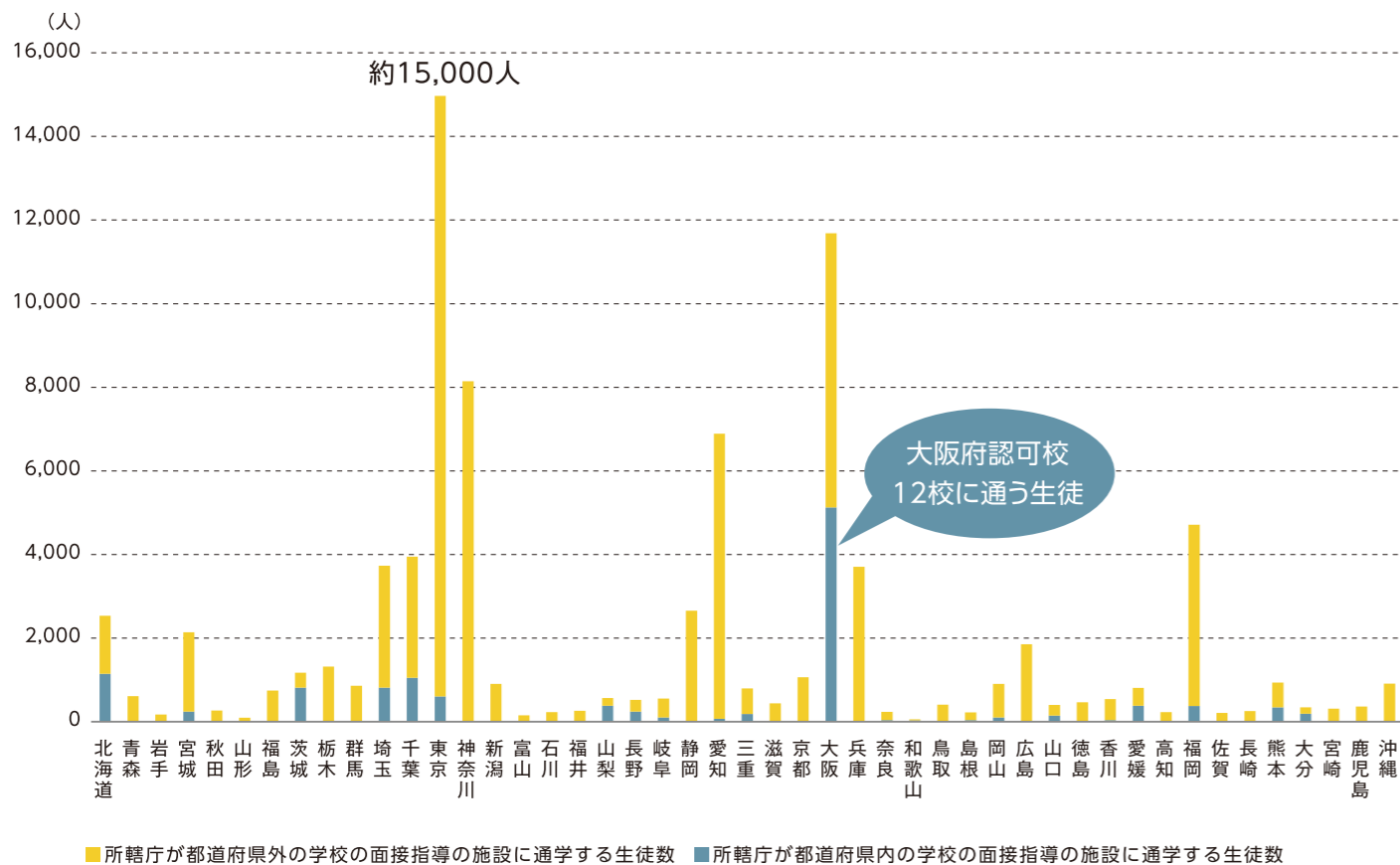


(※1) 大学等進学者とは、大学(学部)、短期大学(本科)、大学・短期大学の通信教育部(正規の課程)及び放送大学(全科履修生)、大学・短期大学(別科)、高等学校(専攻科)及び特別支援学校高等部(専攻科)へ進学した者及び進学しかつ就職した者を示す。
(※2) 専修学校(専門課程)進学者とは、専修学校の専門課程(高等学校卒業程度を入学資格とする課程で通常、専門学校と称する。)へ進学した者及び進学しかつ就職した者を示す。
(※3) 専修学校(一般課程)等入学者とは、専修学校の一般課程及び高等課程又は各種学校(予備校等)に入学した者及び入学しかつ就職した者を示す。なお、各種学校への進学者は、正式な認可を受けている学校に進学した者に限る。
(※4) 公共職業能力開発施設等入学者とは、公共職業能力開発施設等(看護師学校養成所、海技大学校及び水産大学校など学校教育法以外の法令に基づいて設置された教育訓練機関を含む)に入学した者及び入学しかつ就職した者を示す。
(※5) 就職者とは、上記の※1~4以外で就職した者の数を示す。なお、就職とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいう。
(※6) 左記以外の者とは、家事手伝いをしている者、外国の学校に入学した者、上記の※1~5に該当しない者が進路が未定であることが明らかなる者を示す。
(※7) 不詳・死亡の者とは、卒業者のうち、上記の※1~6のいずれかに該当するか不明の者、その年の5月1日までに死亡した者を示す。

(出典) 文部科学省「学校基本調査」

(1) 広域制通信制高校が大都市圏に集中する現状

全国の通信制高校が展開するスクーリング(面接指導)を実施する施設に通学する生徒数は、東京都、大阪府、神奈川県、愛知県、福岡県などの大都市圏に集中しており、これらの5都府県の生徒数で全国の5割以上を占めています。また、これらの施設に通学する生徒については、当該都道府県外の自治体が所轄庁となっている学校の施設が大半を占めています。



(出典) 文部科学省「広域通信制高等学校の展開するサテライト施設一覧」(令和元年5月1日現在)より作成
※近畿大阪高等学校は2023年度開校のため含まない

上記の図で詳細を確認してみましょう。この図は、広域通信制高校が展開する全国の面接指導実施施設に通学する生徒数の状況です。例えば、東京都を見ると、東京都で展開されている、通信制高校の面接指導実施施設には、約15,000人の生徒が通学していますが、その大半は東京都以外の都道府県で認可を受ける通信制高校の施設であることがわかります。東京都の通信制高校に通学する生徒は、1,000人未満という数字になっています。

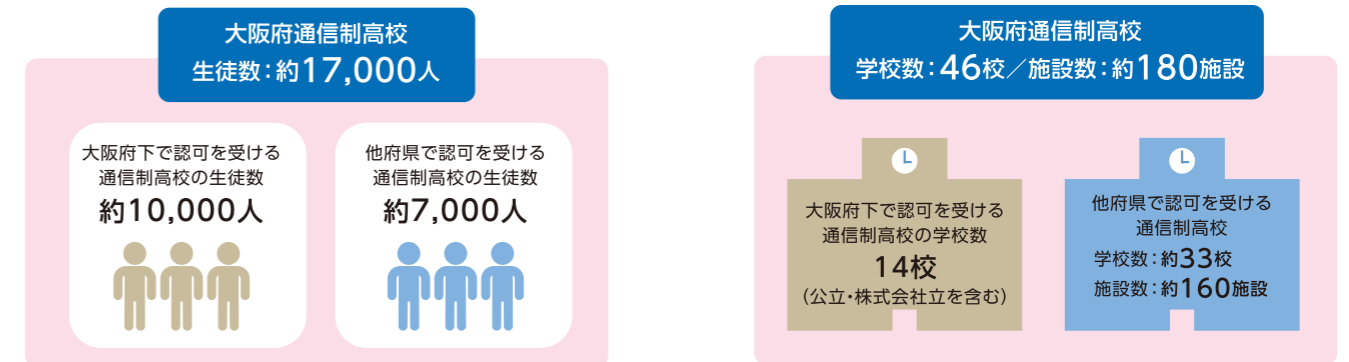
大阪府の状況も見てみます。大阪府は、広域通信制高校に約12,000人の生徒が通学していますが、約5,000人が、大阪府で認可を受ける通信制高校の施設に通学していることがわかります。同じ大都市圏においても、この割合にはそれぞれ特徴があることが分かり、大阪府は、大阪府で認可を受けている通信制高校に在籍している生徒の割合が他の都道府県より多いということが分析できます。

「大阪府の通信制高校に通う」ということと、「大阪府で展開されている他の都道府県の通信制高校に通う」という意味はこの様に異なります。



(2) 大阪府の通信制高校の状況

大阪府には、令和元年時点で、通信制高校に通学する生徒が約17,000人いました。そのうち広域通信制高校に通学する生徒が、約12,000人、また他の都道府県で認可されている通信制高校に通学する生徒が、約7,000人という数字になっています。



先述のとおり、「大阪府の通信制高校に入学する」という意味は、色々な意味で考えることができます。

大阪府で認可を受ける通信制高校へ入学するのか、他の都道府県の通信制高校が展開するスクーリング施設に通学することなのかという考え方です。上記の施設の中には、サポート校なども含まれています。**自身が通学する学校の構造がどのようになっているかをしっかり理解することが大切です。**

(3) 大阪府認可通信制高校と他府県認可通信制高校の違い

全国の通信制高校において、その教育制度や学習システムは大きく変化してきています。よって、大阪府在住生徒が通信制高校への入学を検討する場合、「大阪府認可」と「他府県認可」による、教育内容の違いは大きく存在しません。むしろこの点は、都道府県の違いではなく、学校ごとの特色の差が大きく存在するため、検討する学校の教育システムを、検討者がしっかり理解する必要があります。

では、「大阪府認可」と「他府県認可」の違いとは何でしょうか。大阪府在住生徒の目線で考えた場合は学ぶ場所の違いが挙げられます。一部都道府県では制度が異なりますが、通信制高校は原則認可を受ける都道府県でスクーリング(面接指導)や試験を受ける必要があります。教育課程内のスクーリング以外の日々の学習を、大阪府内の教育施設で実施し、スクーリング(面接指導)や単位認定試験は、認可を受ける都道府県に受講・受験しに行くシステムが多く取り入れられています。一般的に「集中スクーリング」や「宿泊スクーリング」と言われる形態です。



スクーリング(面接指導)実施場所

登校場所	大阪府認可校	他府県認可校
大阪府内	認可施設 スクーリング(面接指導) 基礎学習 学び直し学習 体験型学習 専門学習 資格取得	サテライト施設(サポート校)など 基礎学習 学び直し学習 体験型学習 専門学習 資格取得
	大阪府内で 日常の教育活動や スクーリングを 受講する	他府県にある本校施設で スクーリングを受講 例: 集中スクーリング 宿泊スクーリング
他府県		他府県認可施設 スクーリング (面接指導)

「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して 答申」令和3年1月26日中央教育審議会及び「新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ 審議まとめ」令和2年11月13日同ワーキンググループを踏まえて、学校教育法施行規則、高等学校設置基準、高等学校通信教育規程等の一部改正等が行われました。その中で、通信制高校にも関係する「高等学校通信教育の質の保証」の内容が定められ、多様化する通信制高校の仕組みの充実、厳正さが強く求められるこの時代に、新しいルールが定められることになり、全国の通信制高校が、今一度自校の教育内容を見直す機会となっています。様々な生徒のニーズに対応する学習システムの構築とともに、時代の変化・役割の変化を意識した学校運営を意識することが強く求められています。

各高等学校の特色化・魅力化【学校教育法施行規則・高等学校設置基準の一部改正、通知事項】

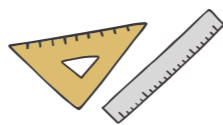
■各高等学校に期待される社会的役割等の再定義

○高等学校の設置者は、高等学校が下記の「三つの方針」を策定する前提として、各高等学校やその立地する市区町村等と連携しつつ、各高等学校に期待される社会的役割等(いわゆるスクール・ミッション)を再定義することが望まれる。

■高等学校における「三つの方針」の策定・公表

○高等学校は、当該学校、全日・定時・通信制の課程又は学科ごとに右記の方針(いわゆるスクール・ポリシー)を定め、公表するものとする。

- (a) 高等学校学習指導要領に定めるところにより育成を目指す資質・能力に関する方針
(b) 教育課程の編成及び実施に関する方針
(c) 入学者の受け入れに関する方針



(※)令和4年4月1日から施行(令和6年度末まで経過措置)

■高等学校と関係機関等との連携協力体制の整備

○高等学校は、当該学校における教育活動その他の学校運営を行うに当たり、関係機関等との連携協力体制の整備に努めるものとする。

(※)令和4年4月1日から施行

普通科改革(高等学校における「普通教育を主とする学科」の弾力化)【高等学校設置基準・高等学校学習指導要領の一部改正】

- 普通教育を主とする学科として、普通科以外の学科を設置可能とする。
○普通科以外の普通教育を主とする学科においては、各学科の特色等に合わせた学校設定教科・科目を設け、2単位以上を全ての生徒に履修させるなどして教育課程を編成することとする。
○普通教育を主とする学科のうち、学際領域に関する学科及び地域社会に関する学科については右記のとおりとする。

- (a) 学際領域に関する学科については大学等との連携協力体制を整備するものとする。
(b) 地域社会に関する学科については地域の行政機関等との連携協力体制を整備するものとする。
(c) 上記2学科は、関係機関等との連絡調整を行う職員の配置その他の措置を講じるよう努めるものとする。

(※)令和4年4月1日から施行

高等学校通信教育の質保証【高等学校通信教育規程等の一部改正、通知事項】

①通信制課程における教育課程の編成・実施の適正化

■通信教育実施計画の作成・明示等

通信教育の方法・内容や一年間の計画等を科目ごとに記載した計画として、通信教育実施計画を策定・明示するものとする。

■同時にスクーリング(面接指導)を受ける生徒数

○同時にスクーリング(面接指導)を受ける生徒数は、少人数とすることを基本としつつ、40人を超えないものであることを明確化。

■関係法令の趣旨明確化

- 試験は、レポート(添削指導)・スクーリング(面接指導)との関連を図り、その内容及び時期を適切に定めなければならないこととする。
○多様なメディアを利用して行う学習によりスクーリング(面接指導)等の時間数を免除する場合には、本来行われるべき学習の量・質を低下させることがないよう、免除する時間数に応じて報告課題等の作成を求めるとともに、多面的・多角的な評価を行うなど学習評価の充実を図るものとする。
○集中スクーリングは、多くとも1日8単位時間までを目安に設定するなど、生徒・教師の健康面・指導面の効果を考慮して適切に定めることとする。



②サテライト施設の教育水準の確保

■サテライト施設の法的位置付けの明確化

○通信制高校の展開するサテライト施設について、最低限の教育水準を確保するため、「通信教育連携協力施設」として法的位置付けを明確化。

■高等学校教育を担うに相応しい教育水準の確保

- スクーリング(面接指導)等の実施に連携協力するサテライト施設は、本校の基準に照らして、適切な編成・施設・設備等を備えなければならないものとする。
○所轄の都道府県の区域外に所在するサテライト施設は、その所在地の都道府県知事が定める設置認可基準を参照して、適切性を確認する。

③主体的な学校運営改善の徹底

■サテライト施設を含めた学校評価の充実

○通信制高校の展開するサテライト施設について、自己評価の実施・公表を行うとともに、関係者評価の実施・公表を努めるものとする。

■教育活動等の情報の公表

○公的な教育機関として社会への説明責任を果たし、外部から適切な評価を受けながら教育水準の向上を図る観点から、サテライト施設ごとに、生徒数・教職員数、教育課程、施設・設備等の教育環境、卒業後の進路状況など、教育活動等の情報を公表するものとする。

(※)令和4年4月1日から施行

多様な学習ニーズへの対応【学校教育法施行規則、高等学校単位制教育規程等の一部改正】

■学校間連携制度の対象拡大

○学校間連携制度の対象について総合的な学習の時間(総合的な探究の時間)を加える。

■少年院の矯正教育の単位認定

○少年院の矯正教育で、高等学校学習指導要領に準じて行うものについて、単位認定を可能とする。

(※)令和3年4月1日から施行

■単位制課程における教育課程の情報の公表

○単位制高等学校の設置者は、その教育課程に関する情報を明示するものとする。

(※)令和4年4月1日から施行

通信制高校の学費

通信制高校は、1単位あたりの授業料(公立:336円~700円、私立:5,000円~12,000円)をもとに生徒の履修単位数によって授業料が計算されます。卒業に必要な単位数は74単位以上となるため、3年間で卒業する場合は平均すると年間25単位程度の履修となりますが、履修単位数は生徒の状況によって変えることができるので、授業料もそれに応じたものになります。

通信制高校の授業料も、国からの就学支援金により、実質負担額が減額されます。私立通信制高校生への就学支援金は、1単位あたり、4,812円です。25単位履修した場合は、120,300円となり、卒業までに74単位分356,088円が支給されます。ただし、親権者の所得により就学支援金が受給できないケースもあります。

また、親権者の所得により上記支給額に2.5倍を上限とした加算制度があります。

就学支援金

①私立通信制高校の場合の(国)就学支援金支給額

1単位の年間支給額 ▼ 4,812円	25単位履修した場合 ▼ 120,300円	卒業までに74単位分支給 ▼ 356,088円
--------------------------	-----------------------------	-------------------------------

②大阪府認可私立通信制高等学校の世帯収入別生徒負担額

大阪府認可私立高等学校においては、先述した「(国)就学支援金」と、「大阪府私立高等学校授業料支援補助金(大阪府在住の生徒に限る)」ならびに「学校免除」の各制度により4人世帯で年収590万円未満(扶養人数により上下します)の家庭は、授業料が実質無償となっています。大阪府認可の通信制高校における生徒の授業料負担については、以下のようになります。

ただし、支援対象となる単位数は生徒一人あたり年間30単位までとし、4年間で74単位が上限となっています。なお、各学校により1単位あたりの授業料が異なりますので、詳しくは各学校にお問い合わせいただくか、ホームページや学校案内等をご覧ください。また、入学金やその他の経費、授業料の納入時期についても各学校により異なりますので、あわせてご確認ください。

年収590万円未満の世帯	年収590万円以上 910万円未満の世帯	年収910万円以上の世帯
負担額 0円	1単位あたり 4,812円を差し引いた金額	全額生徒負担

大阪府私立高等学校における学費補助制度

①高等学校等就学支援金制度(全国)

平成22年度より実施されている授業料軽減制度・各家庭の所得状況に応じ、軽減額は異なります。

②私立高等学校等授業料支援補助金(大阪府)

国の定める就学支援金と合わせて、私立高等学校の保護者学費負担が10万円で収まるように定められた制度です。大阪府内に生徒・保護者の住所があること、大阪府認可の私立高等学校のうち、対象となっている高等学校であることなど諸条件があります。

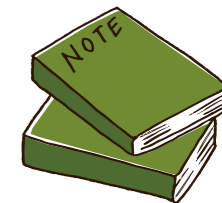
③私立高等学校等奨学のための給付金(都道府県ごとに設定)

大阪府内に在住する生活保護(生業扶助)・非課税世帯の親権者に対し、授業料以外の教育費の経済的負担を軽減するための給付金制度です。

④大阪府私立高等学校等学び直し支援金(全国)

高等学校等を中途退学した方が、再び高等学校等で学び直す場合に、高等学校等就学支援金の支給期間終了後も卒業するまでの間の最長2年間支援金が給付される制度です。給付額は課税者の所得によります。

⑤その他各種奨学金・国の教育ローンなど



全日型のクラスで毎日頑張っています！

ケース1

八洲学園高等学校
所属クラス:週5日登校型
Aさん

1日の流れ

8:40 登校
時間に余裕を持って登校



8:50 SHR
1日の流れをSHRで確認！

9:00 基礎国語
反復しながら学習することで基礎学力の定着を目指します

10:00 就労体験
学内でのカフェ運営や軽作業、SST等を通して社会生活に必要な経験をする事ができます



11:00 チャレンジ活動
栽培、ものづくり、制作活動、調理など、様々な実習の中で自分の適性を知ります



昼食
みんなと話しながらお弁当タイム

12:40 進路ガイダンス
卒業後に必要な知識を身につけます



13:40 スクーリング
プリント授業なので分かりやすい！

14:40 スクーリング
分からないところは授業後に先生に質問

15:30 放課後
下校時刻まで友達とおしゃべり



16:00 下校
介護職につくための勉強をしているよ！

週3日の通学を頑張っています！

ケース2

YMCA学院高等学校
所属クラス:週3日の昼から通学型
T君

1日の流れ

11:20 登校
余裕を持って15分前には登校！



11:30 クラスワーク
クラスメイトと仲良くなるチャンス！

12:20 昼食
友人とお弁当タイム！



13:00 スクーリング
英語は、中学校の学び直しから高校のレベルUPに取り組んでいます！

14:00 スクーリング
色んな生物が知れておもしろい！

15:00 スクーリング
歴史上の偉人や格言などが魅力！

15:50 SHR
1日のふりかえりをノートに記入、翌日の確認もします！

16:00 進学学習
大学受験に向けて英語を強化中！

17:30 下校



皆勤賞目指して頑張っています！

ケース3

東朋学園高等学校
所属クラス:週3日通学クラス
Aさん

1日の流れ

9:30 登校
朝はちょっと早めに20分前に登校

9:50 朝礼
一日の流れを確認！

10:00 ベーシック英語
動詞の活用形について復習



11:00 ベーシック社会
中学校の内容を学びなおし。47都道府県、書けるか挑戦！

11:50 昼食
クラスメイトと仲良くお弁当タイム

12:30 ベーシック国語
漢検対策で小テスト

13:30 LHR
みんなで協力して、学校の掲示物づくり！

14:20 終礼
提出物や宿題の確認！

14:30 放課後
帰る前に図書室でおしゃべりタイム

15:00 下校
家に帰ったら、宿題と明日の予習を頑張ります！



皆勤賞を目指して登校します！毎日学校に行くことが当たり前になってきました！

ケース4

神須学園高等学校
所属クラス:週2~5登校型
Mさん

1日の流れ

8:40 通学
家から学校まで徒歩と電車で30分ぐらいで到着します。



8:45 登校
毎朝玄関で校長先生が挨拶してくれます

9:15 SHR
朝学活までに今日の体温と健康チェックをスマホで行います。



9:20 国語
毎回漢字テストをしています。自分の力になっているのを実感します。

10:20 コンピュータⅡ
私の好きな授業です。専門知識を学べます。



11:20 英語
英語の授業は楽しくて、いつも盛り上がってしまいます。

12:30 昼食
同じオプションをとっている友達と、ラウンジで食べます。

13:00 オプションイラスト
2年生になって初めてのオプションです。

14:00 オプションイラスト
ドキドキしましたが楽しく取り組みました。

15:00 下校
オプションをとっている子と一緒に駅まで帰りました。



えい ふう

英風高等学校

Eifu

〒553-0006
大阪市福島区吉野4-13-4
TEL.06-6464-0668
FAX.06-6464-1130
<https://www.eifu.ed.jp/>



英風高等学校は女子だけの通信制高校です。異性の目を気にせず、ありのままの自分でいられ、のびのびできる環境が女子校のメリットです。多彩な特別活動は15講座以上開講しています。スクーリングは原則週2日登校の午後からの始業なので、朝が苦手な生徒でも安心です。レポートはiPadとタッチペンを使って解答・送信。スクーリングの予約もでき、学習の進み具合も簡単に確認できるため、学習計画が立てやすく、やる気の継続にも繋がります。静かな授業と校内の落ち着いた雰囲気づくりに努めています。

おお さか

かい せい

大阪つくば開成高等学校 Tsukuba

〒530-0043
大阪府大阪市北区天満2-2-16
TEL.06-6352-0020
FAX.06-6352-0021
<http://otk.ed.jp/>



地上5階地下1階の校舎の向いに、5階建て新校舎が完成。年4、5日～毎日でも登校可。年度途中でも登校スタイルを変更できます。希望者のみ選択できるデジタルイラスト、調理、美容、IT、ミュージック、ダンスなどが学べる9つの専門コースは、卒業単位として認定。公認心理師・臨床心理士3名によるカウンセリングも実施。起立性調節障害等の生徒も安心して学べます。行事やクラブ活動は生徒たちの意見が反映される教育方針で、友達作りを支援します。担任、体育実技も自分で選べ、一人ひとりに合った学校生活が送れます。本校は、生徒・保護者の皆さんがつくる学校です。

しゅう おう

秋桜高等学校

Shuoh

〒597-0002
大阪府貝塚市新町2-10
TEL.072-432-6007
FAX.072-432-1996
<https://www.shuoh.ed.jp/>



秋桜の願いは「自分もまわりの人も大切に楽しく学ぶ」ということ、「その人らしく、うれしい気持ちで過ごせるように」ということです。「勉強がきらい」「学校生活がなんとなく苦手」「人づきあいに自信がない」などと思っている人も、誰もが安心して学校生活が楽しめるようにと私たちは思っています。学習については、手作りのプリントや教材を使い、誰もが学ぶことの楽しさを感じられて、参加できる授業づくりを目指しています。行事(特別活動)についても、毎年楽しめるものを企画しています。一人ひとり、どの人もが安心して学び、過ごせる空間を保障したいと私たちは思っています。

てん のう じ がっ かん

天王寺学館高等学校 Tennoji

〒547-0041
大阪市平野区平野北1-10-43
TEL.06-6795-1860
FAX.06-6795-1866
<https://www.tg-group.ac.jp/tgkoko/>



大阪府及び奈良県を校区とする「狭域通信制」高等学校です。本校は総合学科と単位制の制度を活かし、目的に合わせた科目を生徒自身が選択できるシステムです。在宅学習(年間20日程度登校)中心のコースから、週3～5日登校の通信/通学部のコースまで個々の変化に合わせ、年3回コース変更出来ます。選択科目は多彩で90以上あり、芸術コースでは専門的な授業も開講されています。進路指導にも注力し、毎年難関大学への進学者を多数輩出しています。これまでは関係ありません。これからを大切に、高校生活を一緒に歩んでみませんか。

きん き おお さか

近畿大阪高等学校 Kinki Osaka

〒599-0232
大阪府阪南市箱作1054番1
TEL.072-447-4761
FAX.072-447-4763
<https://koutoku.ac.jp/kinkiosaka/>



2023年4月に開学した大学法人が運営する通信制高等学校です。選べる学習スタイルは(週1日・3日・5日・自宅・オンラインコース)があり、自分のペースで学べます。また、イラストや心理学、ミュージック、ICT等の多彩なカリキュラムは、大学との連携の一環として、スペシャルな講師陣から学べます。そのほか、ネイルアート、アロマセラピー、自然体験、マンガ等の多彩なプログラムも用意しています。臨床心理士、公認心理師等の専門家が心と発達の支援を行い、一人一人の成長とニーズに合わせたサポートと、大学、短期大学への内部進学等の安心の進路指導で、充実した高校生活を支援します。

けん めい がく いん

賢明学院高等学校 Kenmei

〒590-0812
大阪府堺市堺区霞ヶ丘町4丁-3-30
TEL.072-241-2111
FAX.072-241-1576
<https://kenmei.jp/correspondencecourse/>



大阪府堺市の賢明学院高等学校は開校8年目を迎えました。大阪府唯一の全日制高校が併設されている普通科通信制課程の高等学校です。週に1日から5日の多彩な通学スタイルで、中学校からの学び直しから大学進学に対応した習熟度別授業を展開。クラス担任制によるきめ細やかなケア・サポートは卒業まで続き、希望進路の実現まで導きます。特別活動は月に2回実施し、興味のある活動を選べます。友達づくりや将来について考える体験活動を豊富に用意しています。いつも仲間が、先生が寄り添ってくれる学校、学ぶ楽しさを、祈る大切さを経験できる学校です。

とう ほう がく えん

東朋学園高等学校 Toho

〒543-0017
大阪府大阪市天王寺区
城南寺町7-28
TEL.06-6761-3111
FAX.06-6761-3112
<http://www.okazakitoho.ed.jp/>



岡崎学園は、創立77周年を迎えた学校法人です。多様なニーズに応えるため、2020年4月に東朋学園高等学校通信制課程を大阪上本町に開校しました。同じ岡崎学園グループの東朋高等専修学校で実践してきた、合理的配慮に基づいた個別支援教育の経験を生かし、生徒の特性に応じた教育・指導を行っています。また、生徒たちの可能性を最大限に伸ばすため、自立を促す実践的な知識や技術の習得、考える力を養う教育を展開しています。それぞれが潜在的に持っている、個性や適性、能力を生かして幅広く社会で活躍できる人材育成をめざしています。

なが お だに

長尾谷高等学校 Nagaodani

〒573-0163
大阪府枚方市長尾元町2-29-27
TEL.072-850-9111
FAX.072-850-6116
<https://www.nagaodani.ed.jp/>



住所記載の枚方本校だけでなく、大阪市内に梅田校・なんば校があり、それ以外にも京都校、奈良校があります。いずれも交通アクセスの便利などところあり、基本的に同じシステムによる教育を行っています。自分の住所や生活圏等を考え、通いやすい校舎を選んで入学することが出来ます。月曜日から土曜日まで実施しているスクーリングから自分の選択した科目の定められた回数を出席するというフレックスな時間割となっており、基本的に週1～3日登校する形態のマイスタイルプログラムにて学習を進めます。基本的に固定のホームルームクラスはありませんが、中学新卒入学生で希望者には、スタートクラスというホームルームクラスを設定しています。(希望者が多数の場合抽選になる可能性があります。)

こう ず がく えん

神須学園高等学校

Kozu

〒596-0076
大阪府岸和田市野田町1-7-12
TEL.072-493-3977
FAX.072-493-3976
<https://www.kozu-gakuen.ed.jp/>



本校は、南海岸和田駅から徒歩2分の場所にあり、アシストコースとスタンダードコースの2つのコースを開講しています。不登校経験のある人、クラスメイトと関わる時間がたくさん欲しい人、基礎から学び直しをしたい人、少ない登校回数で卒業資格を取得したい人や時間を有効に使った高校生活を送りたい人など、さまざまなニーズに合わせて高等学校の卒業を目指すことができます。厳しくもあり、この上ないぬくもりのある学校を目指しています。

こう よう だい

向陽台高等学校 Koyodai

〒567-0051
大阪府茨木市宿久庄
7丁目20-1
TEL.072-643-6681
FAX.072-643-0455
https://www.koyodai.ed.jp



向陽台高等学校は、昭和39(1964)年に創設された広域通信制高等学校で、平成元(1989)年から単位制を導入しています。様々な分野で活躍する卒業生はすでに16万5千名以上という高校です。本校は、北摂の丘陵地帯に位置しています。本校独自の5ターム(2ヶ月ごとの単位認定)を中心とした実績のある学習システムと教員全員によるサポート体制であります。生徒のニーズに合わせた5つのコースを展開し、卒業後の進路に向けて積極的に取り組んでいます。

や しま がく えん

八洲学園高等学校 Yashima

〒593-8327
大阪府堺市西区鳳中町8-3-25
TEL.072-262-8281
FAX.072-264-0950
<https://www.yashima.ac.jp/hs/>



八洲学園高等学校は、1992年に開校して以来、約38,000人の卒業生を輩出した実績と伝統のある通信制高校です。大阪府堺市西区の堺本校を中心に、大阪市北区梅田、同市中央区玉造、神戸市中央区三宮と関東に4拠点の計8拠点あります。当校の学習拠点は最寄駅から近く、通いやすい距離にあります。開講クラスは、全日型のベーシッククラス、少人数で自立をテーマに学ぶ5年制クラス、週1～3日登校選択型のマイスタイルクラス、完全個別学習のホームサポートクラス、従来の通信制高校のシステムで進める自学自習型の通信クラスで運営しています。

がく いん

YMCA学院高等学校 YMCA

〒543-0073
大阪市天王寺区生玉寺町1-3
TEL.06-6779-5690
FAX.06-6779-1831
<https://www.ymcagakuin.ac.jp/>



「もっと、あなたらしく。もっと、笑顔に。」一人ひとりを尊重し、大切に、そして皆さんを信頼する学校です。【YMCA学院高等学校の5つのポイント】
①在校生の安心につながる支援体制(3つのケア)があります
②9つのコースから通学スタイルが選べます
③一人ひとりの豊かな成長を応援する総合学科ならではの多彩なカリキュラムと体験活動があります
④同じような悩みや経験をもつ仲間や信頼できる大人、国籍や年齢を超えた人々と出会えます
⑤自分らしい進路選択を実現するための「学びなおし」や「進学サポートプログラム」があります